

## ノートルダムファミリーコンサートを終えて

先週 土曜日、9月3日に、ノートルダム・ファミリーコンサートが、京都コンサートホール / 大ホールで開催されました。

このファミリーコンサートは、ノートルダム小・中高・大、三校の同窓会が主体となって3年に一度開催されるものです。皆様の母校ノートルダムへの愛情の発露です。その実りの一部として、今回の収益金は、東日本大震災被災者への義援金とネパールでの教育活動のため寄付されます。

今回も、専門家として音楽界で活躍中の卒業生たちの演奏、中高生を主体とし、小学生も含むオーケストラの演奏、そして、学生・同窓生・保護者・教職員・サポーターによる混声合唱のプログラムで、練習を重ねて来ました。1年2ヶ月前から、三校同窓会、保護者会、教職員、法人スタッフからなる諸委員会が、何十回もの会議を重ね、9月3日を目指して準備してきました。

ところが、思いもかけず大型の台風12号が四国から西日本に上陸するという予報です。何とか太平洋上に消えてほしいと祈りましたが、願いもむなしく、非常にゆっくりとした速度で北上し、当日には京都もすっぽりとその暴風雨圏に入ってしまった。それにも関わらずこの激しい風雨と言う悪天候の中、1000名を超えるお客様がご来場くださいました。感謝の気持ちでいっぱいです。

生徒の安全を第一に願っての学校の方針で、暴風警報発令中 残念ながら小・中・高生は、参加できず、オーケストラ演奏は取りやめになりました。半年前から、総力を挙げてこの日を目指し練習を重ねた中高生の悔しさ、悲しさを思うと、本当に辛くこころ痛みました。ご多忙中、時間を合わせてご指導くださった音楽顧問大山平一郎先生、指揮者の柴 愛 様にも、心苦しい思いです。

しかし、悪天候の中ご出演くださった音楽家卒業生たちの演奏、150人を超えるコーラスの方々の歌声に、聴衆はうっとりとしさせられ、また、出演できなかったオーケストラクラブの部長、副部長達の心迫るな挨拶、そのなかの、「この悔しい思いを、何とか将来に向けて活かしたい」と言う決意表明に心打たれ、大きな感動をもらい、あらためてノートルダム・ファミリーの強い絆に結ばれた心に残る会となりました。



本当に多くのノートルダムを思う人々の無償の奉仕、時間とエネルギーの提供で準備されたコンサートでした。台風のために、思い描いた大成功とはなりませんでしたが、大自然の猛威の前の人間の小ささを味わいつつ、『これには、必ず深い意味がある』と信じ、ミッションスクールのファミリーらしく、神様の前に謙虚に頭を垂れ、未来に希望をかけて歩んでまいりたいと願っております。

事実、コンサートの後、何人もの方々から、感動のエールが送られて来、ノートルダムにつながる人の輪の広がり、交わりの喜びを感じております。

台風12号のために、お亡くなりになった方々のご冥福と、被災者の方々に一日も早く救助の手が届くことを祈っております。

和田 環